

# ご存じですか！文化財

75

## 「晩秋の赤城山」

市指定有形文化財 昭和38年9月17日指定



斎藤与里は、明治18(1885)年に現在の加須市下樋遣川に生まれ、日本近代美術を代表する画家となった偉人です。

20世紀初頭、フランスに留学し、帰国後は大阪や東京を拠点に、画家としてだけでなく、著述家、教育者として活躍し、近代芸術の振興に大きく寄与しました。昭和20(1945)年に戦禍を逃れるため加須に疎開し、以降、昭和34年に逝去するまで加須を中心として創作活動に没頭しました。

「晩秋の赤城山」は、加須に戻って以降の最初期の作品で、第二次世界大戦終結直後の昭和21年に開催された第2



問合せ  
生涯学習課  
(0480)62・1223

回日展に出品された代表作の一つです。利根川越しに望む赤城山をモチーフに、伸びやかな筆致と鮮やかな色彩で郷土の情景を豊かに表現した作品です。当時、地元の有志が新築の役場を飾る作品を与里に依頼したのが本作であるとされています。

本作は、現在、サトエ記念21世紀美術館で開催中の「生誕130年記念 斎藤与里展」にて、3月13日(日)まで特別展示されています。ぜひ、この機会にご鑑賞ください。



展示会場 水深2067

紹介者 江口 健さん(公財)サトエ記念21世紀美術館主任学芸員)